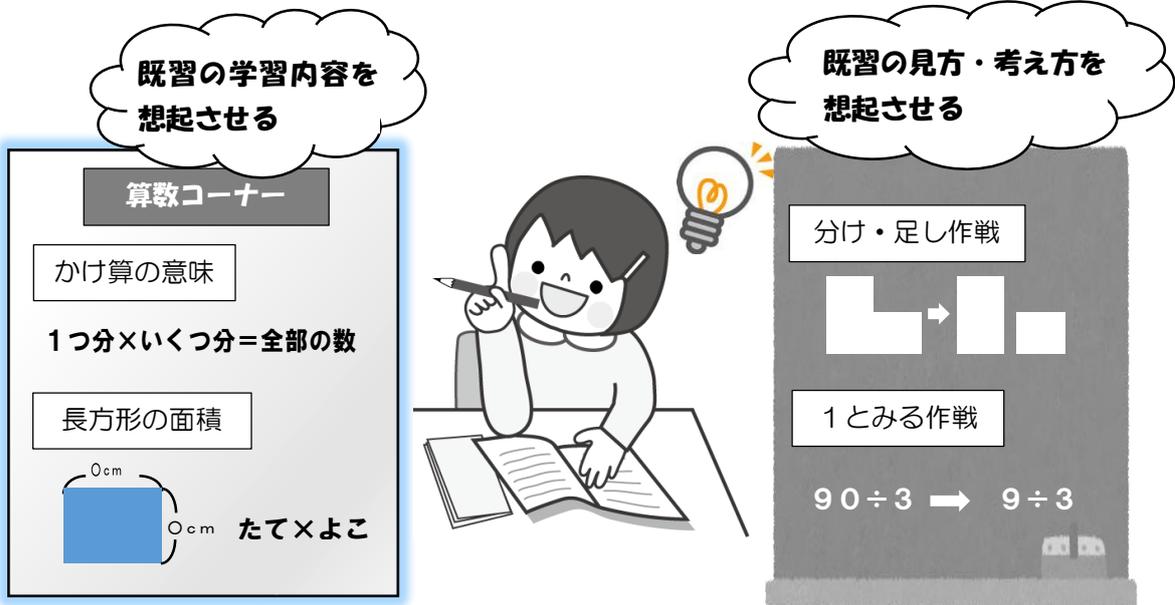


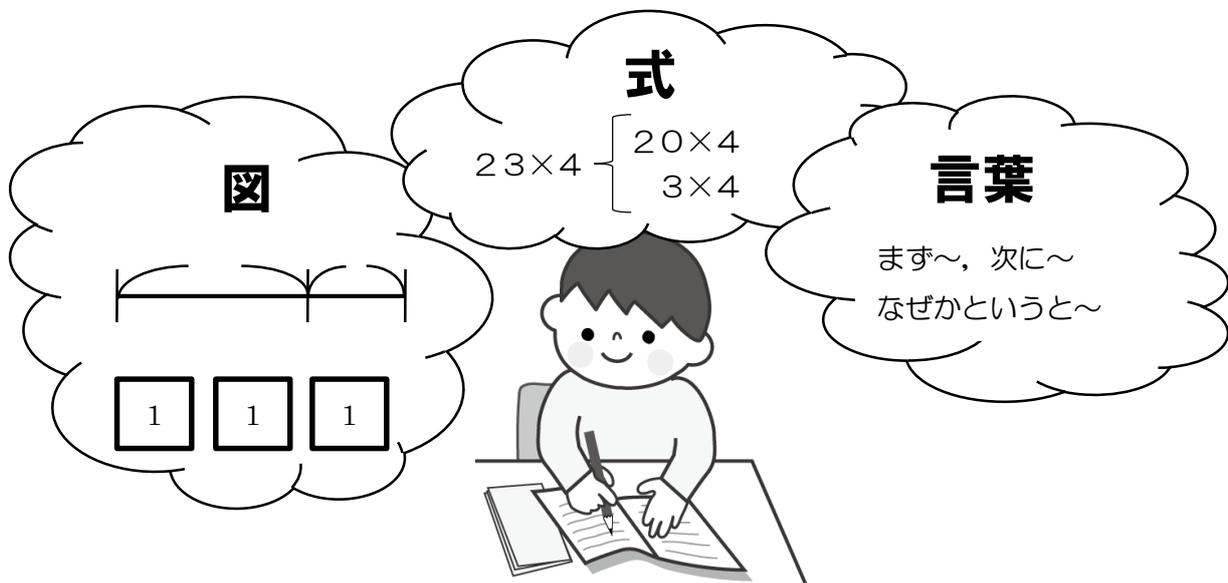
6 研究の視点・手立て

視点1：自分なりの考えをもたせる自力解決の工夫

手立て①既習事項の振り返らせ方や見通しのもたせ方を工夫する。



手立て②言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて自力解決させる。



本研究における「自力解決」

見通しを共有したり、既習事項を確認し合ったりした後、自分の力で問題を解決する段階。自分の考えをノートに書いたり、具体物を用いたりして表現する。必要に応じて個別に支援したり、隣同士で相談し合う時間などを取り入れたりする。

基本的には時間をあまりかけずに行うが、指導者の意図によっては、時間をかけて図、式、言葉での説明にじっくりと取り組ませることもある。

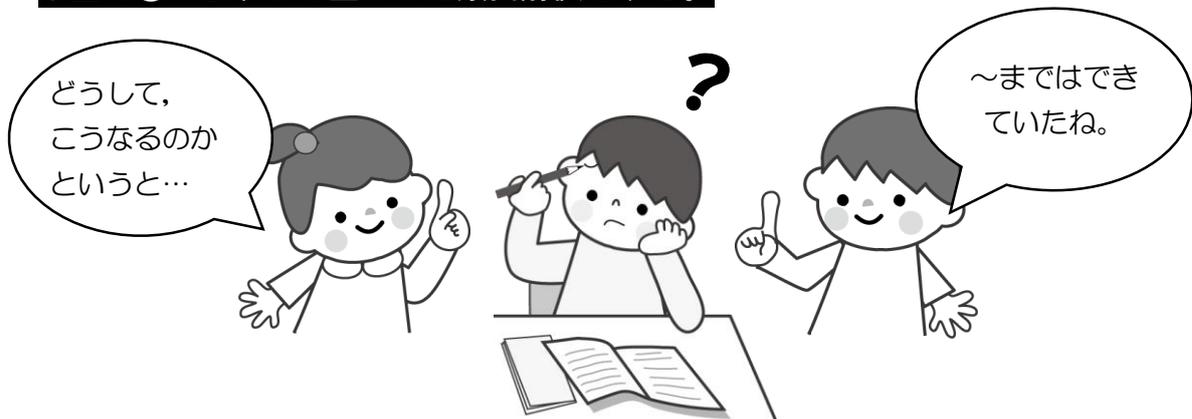
教師は、多様な考えやつまづきを見取り、集団解決の進め方の計画を立てる。

視点2：一人一人の考えを生かしながら理解を深めさせる集団解決の工夫

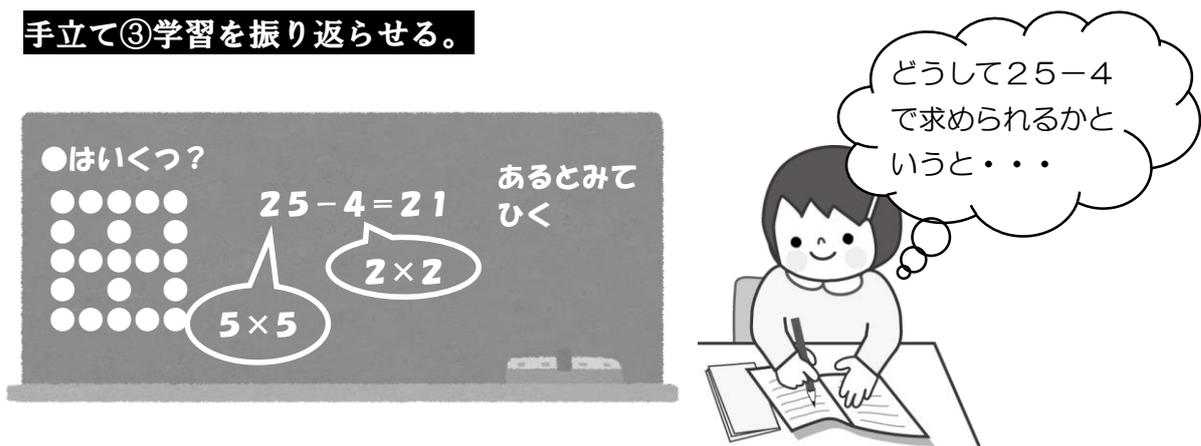
手立て①互いの考えを共有させる。



手立て②つまずきを生かした集団解決をする。



手立て③学習を振り返らせる。



本研究における「集団解決」

自力解決で考えたことやつまずいたことを基に話し合う段階。

互いの式や図を読み取ったり、つまずきを基に教え合ったりするなど、児童同士がかかわり合いながら、集団で問題を解決していく。学習の最後の段階で、集団解決を振り返ることにより、集団での思考を自分自身の思考に取り込んでいく。